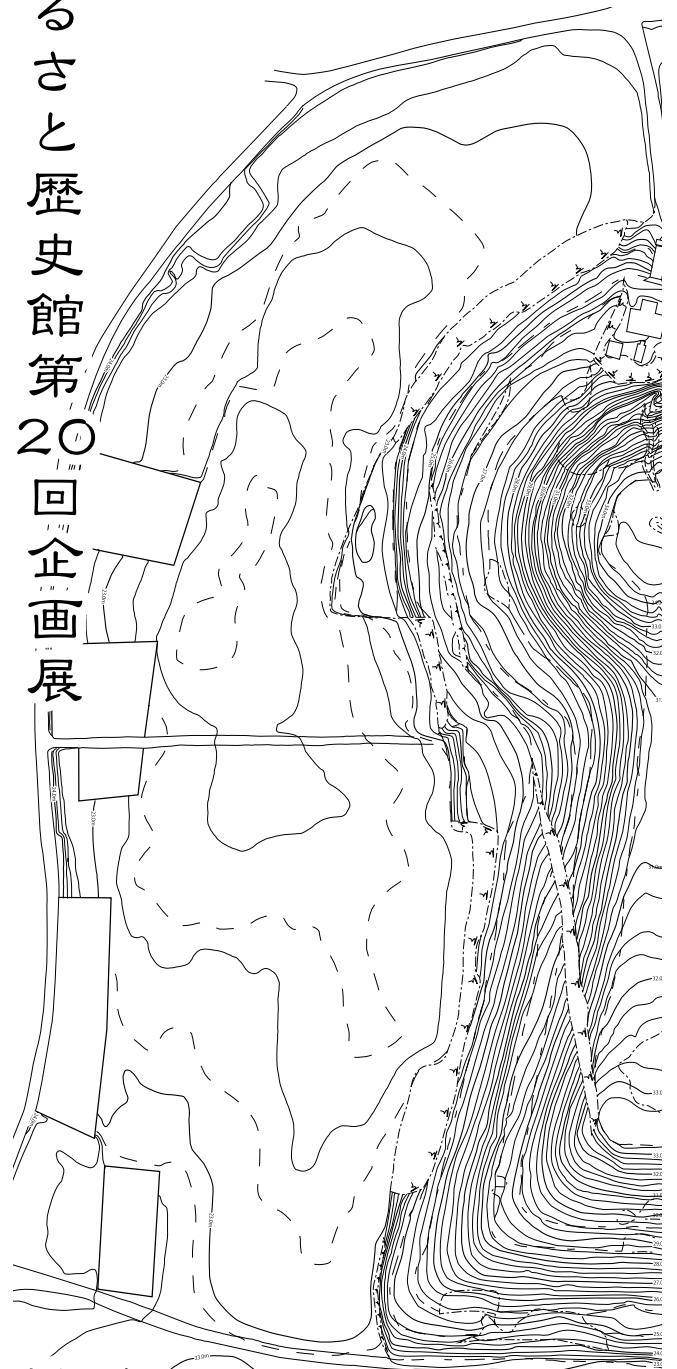
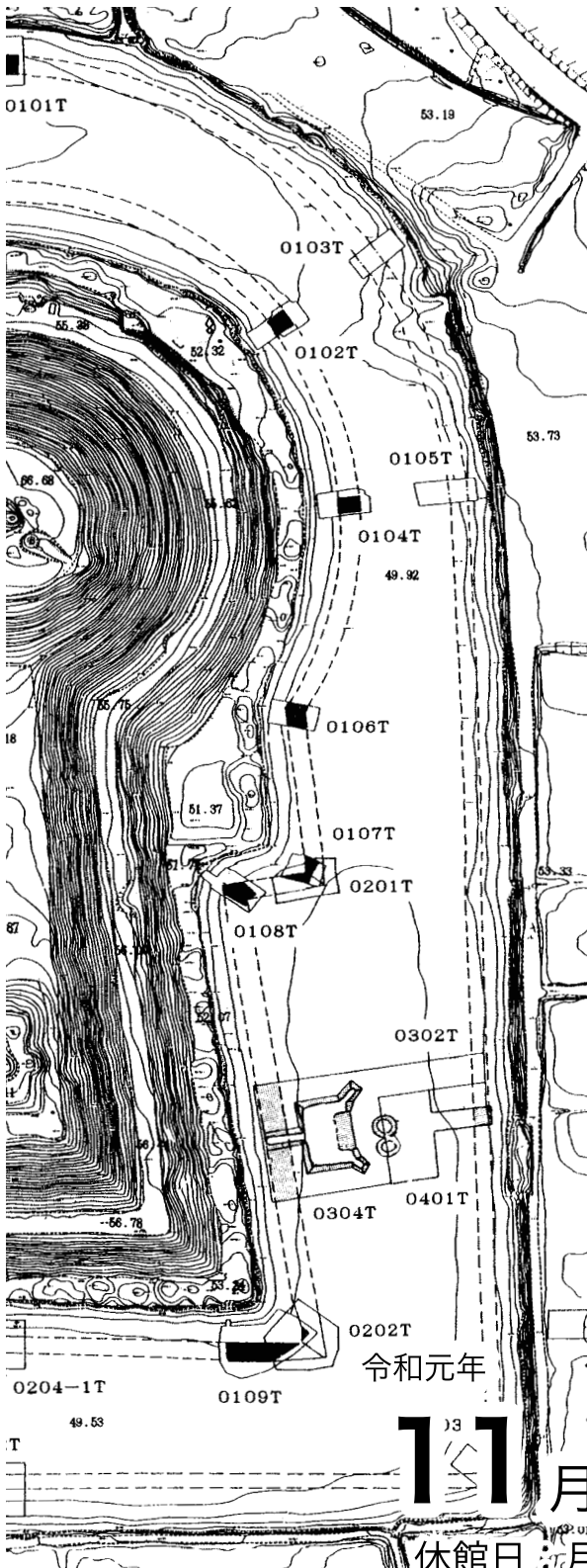


ふるさと歴史館第20回企画展

# 舟塚山古墳とその時代



令和2年

11月7日 ▶ 2月2日

入館無料

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始（12/28～1/4）

奈良県広陵町 巢山古墳

茨城県石岡市 舟塚山古墳

## 石岡市立ふるさと歴史館

石岡市総社 1-2-10 石岡小学校敷地内

電話 0299-23-2398

# 舟塚山古墳とその時代

## ■目次

はじめに	1
I 舟塚山古墳	2
II 舟塚山古墳群	9
III 石岡市の古墳	13
IV 古墳時代の集落	15
展示品一覧	16

## ■例言

本冊子は、令和元(2019)年11月7日～令和2(2020)年2月2日を会期として開催する石岡市立ふるさと歴史館第20回企画展に際して作成したものです。

展示および本冊子の編集・執筆は、石岡市教育委員会 文化振興課(谷仲 俊雄)が行いました。

展示にあたっては、以下の文献をはじめ、各発掘調査報告書など多くの文献を参考にいたしました。

『常総の歴史』第38号(舟塚山古墳特集)，2009年

岸本直文編『史跡で読む日本の歴史2 古墳の時代』吉川弘文館，2010年

井 博幸「舟塚山古墳群をめぐる断想―埴輪，出土・採集遺物からの接近―」

『茨城県考古学協会誌』第24号，2012年

佐々木憲一編『霞ヶ浦の前方後円墳―古墳文化における中央と周縁』

明治大学文学部考古学研究室，2018年

谷仲俊雄「茨城県舟塚山古墳の築造時期」

『婆良岐考古』第41号，2019年

## ■謝辞

以下の方々・機関にご協力いただきました。ありがとうございました。

茨城大学人文社会学部考古学研究室，明治大学文学部考古学研究室

石岡市立中央図書館

佐々木 憲一，田中 裕

# 舟塚山古墳とその時代

北西に筑波山，南東に霞ヶ浦を望む景勝の地に，巨大な前方後円墳が存在しています。古墳の大きさは186m。茨城県内ではもちろん最大，東日本でも第2位の規模を誇っています。古墳の名は，「舟塚山古墳」。その姿が，巨大な舟が停泊しているように見えたことから，名付けられたのでしょう。

その巨大さゆえに古くから注目され，大正10年(1921)には，全国で初めて指定を受けた38件のひとつとして，国の史跡に指定されています。

以来，80年以上の長きにわたって，大切に保存されてきています。平成23～25年度には，測量調査と物理探査が行われ，埋葬施設や被葬者像，築造時期に関する手がかりが得られました。

本企画展では，舟塚山古墳の最新の調査成果を紹介するとともに，石岡市内の古墳や古墳時代の集落について紹介いたします。



▲ 舟塚山古墳(北東上空から。奥に恋瀬川が流れる)



# 調査のあゆみ① 史跡指定と測量調査

舟塚山古墳は、大正10年(1921)に国の史跡(当時は史蹟)に指定されました。大正8年に「史蹟名勝天然紀年物保存法」が公布・施行され、同法に基づき最初に指定された38件のうちのひとつにあたります。「長軸615尺(約186m)」という大きさや残りの良さが指定の理由としてあげられ、舟塚山古墳が古くから注目されていたことがわかります。

昭和38年(1963)、明治大学考古学研究室により古墳の測量調査が行われ、翌39年成果が発表されました。早くから注目されていた舟塚山古墳でしたが、それまで学術的な発掘調査はもちろん、古墳の測量図も作成されていませんでした。これが舟塚山古墳の調査のはじまりと言えます。

測量図から墳丘長は182mと計測されました。これは、常陸太田市の梵天山古墳(160m)、水戸市の愛宕山古墳

## 指定時の舟塚山古墳 ▶

内務省1927『埼玉茨城群馬三縣下に於ける指定史蹟』

(116m)を上回るもので、茨城県下で最大規模の古墳であることが実証されたこととなります。

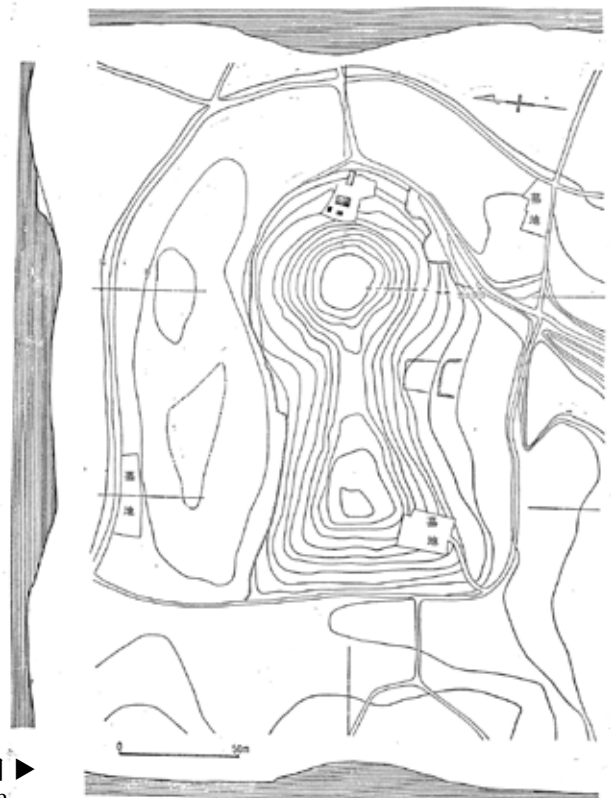
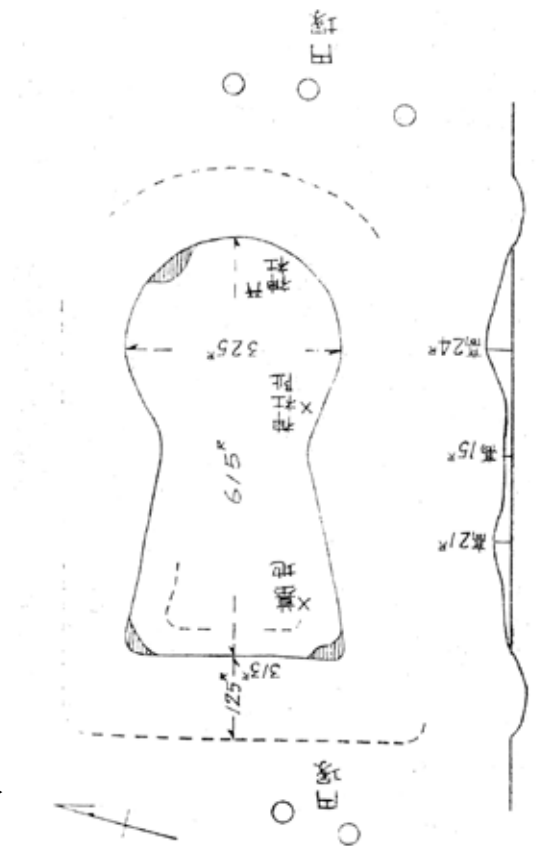
また、墳丘は前方部が長いのが特徴で、大阪府の大仙古墳(仁徳陵古墳)や奈良県のウワナベ古墳のものと似ていることが指摘されました。

築造された時期については、発掘調査が行われ副葬品が判明している行方市の三味塚古墳や勅使塚古墳等との比較から、6世紀中葉前後(550年前後)と考えられました。

そして、恋瀬川の河口をおさえ、軍事上・経済上の要地である霞ヶ浦北端部に位置することから、ヤマト政権の東国支配の確立に重要な役割を果たした人物—茨城国造の墳墓と推定されました。

## 昭和38年の舟塚山古墳測量図 ▶

大塚初重・小林三郎1964『茨城県舟塚山古墳の性格』『考古学手帖』22

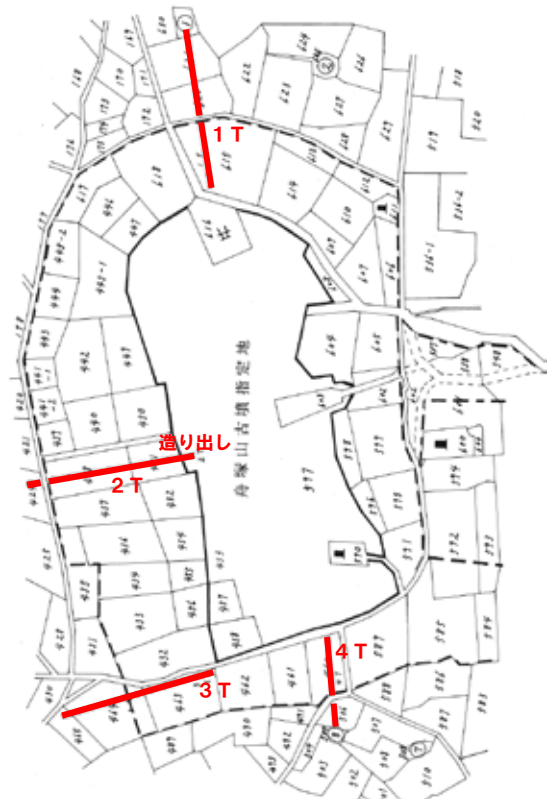


# 調査のあゆみ② はじめての発掘調査

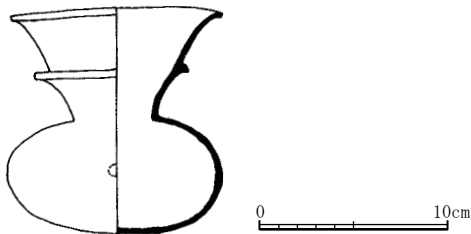
昭和47年(1972), 舟塚山古墳におけるはじめて学術的な発掘調査が行われました。とはいっても, 調査されたのは, 古墳のまわりにめぐる堀の部分と, 周辺の古墳。古墳をめぐる周濠(周堀)の範囲や, 周辺に位置し「陪冢」とも考えられる円墳がどうなっているか調べるためのものでした。

調査の結果, 古墳のまわりには幅35~55mほどの濠(堀)がめぐっていることが確認されました。今でも舟塚山古墳のまわりは皿状にくぼみ, 道路が盾形にめぐっていますが, それが壮大な周濠の痕跡であることが確かめられたこととなります。

また, 後円部と前方部の接続部分にあたる「くびれ部」という部分では, 「造り出し」と呼ばれる壇状の施設があることがわかりました。造り出しからは, 土師器の「はそう」と呼ばれる小形の壺や埴輪が出土しました。埋葬に伴う祭祀や儀式が行われていたのでしょう。



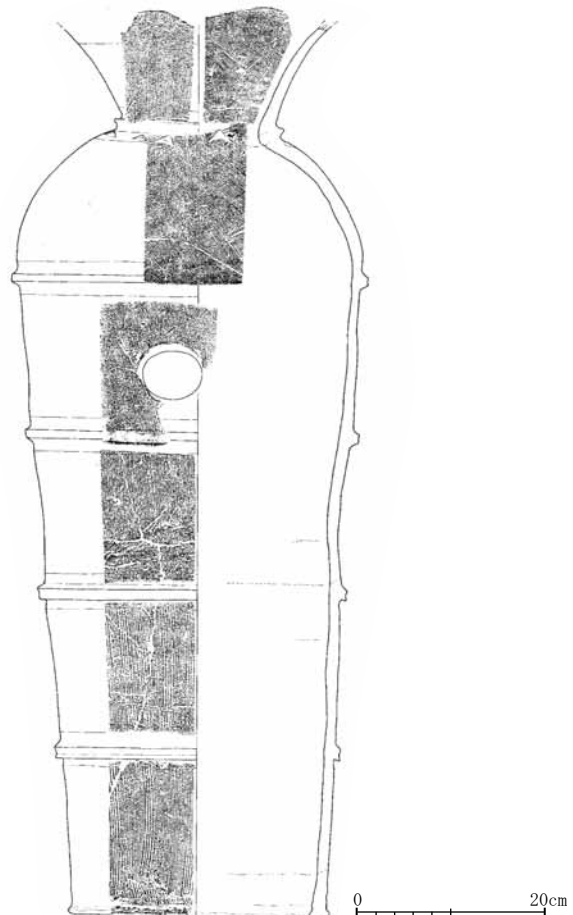
▲昭和47年の調査地 (赤色の部分)  
石岡市教育委員会1972『舟塚山古墳周濠調査報告書』



造り出し出土 土師器



前方部出土 円筒埴輪



前方部裾部出土 朝顔形埴輪

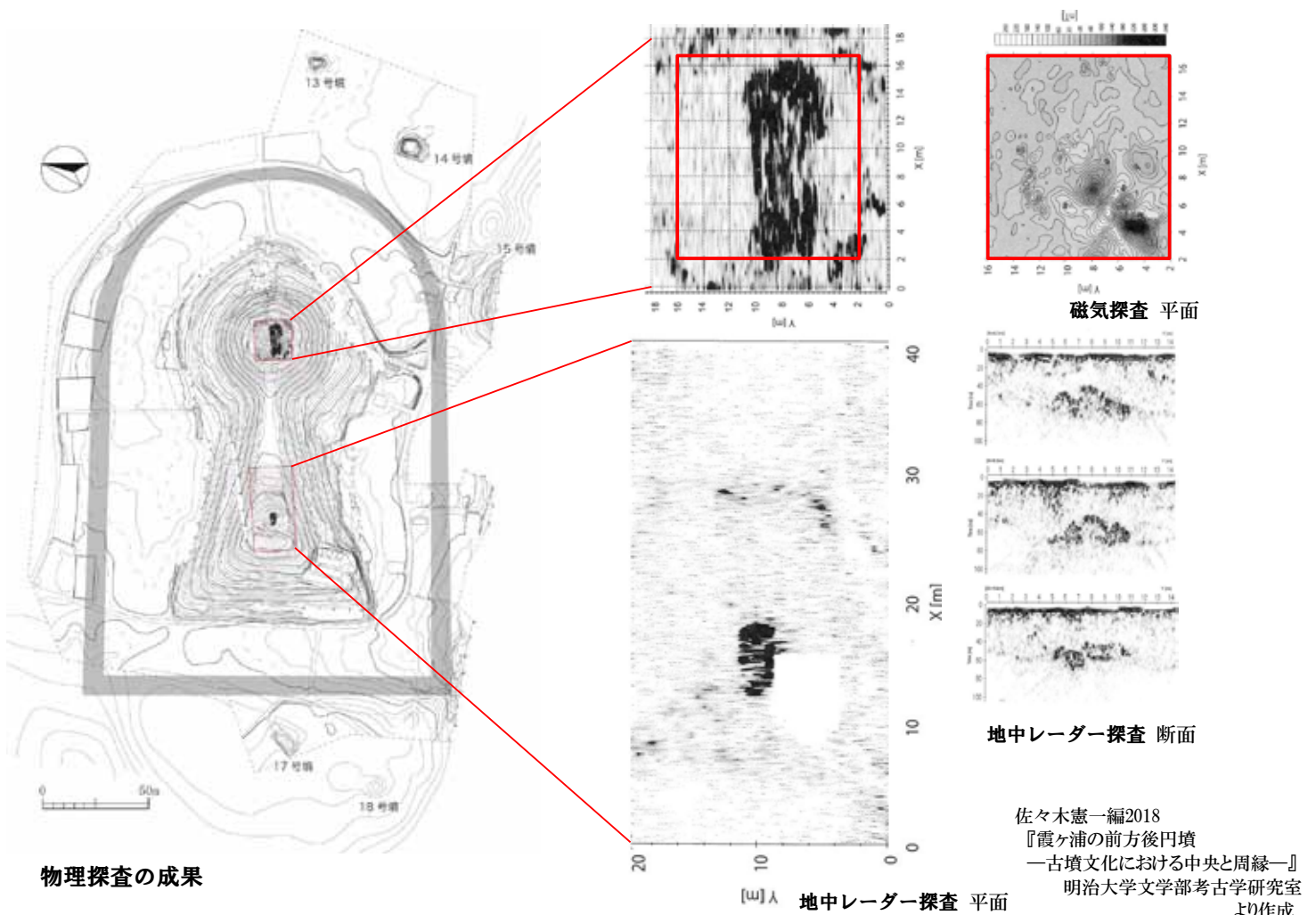
# 調査のあゆみ③ 測量調査と物理探査

その後、周濠部分で工事に伴う小規模な試掘調査等は行われましたが、学術的な調査は行われずにいました。平成25年度(2013)になると、舟塚山古墳の後円部と前方部の墳頂で、物理探査(地中レーダー探査と物理探査)が行われました。

地中レーダー探査とは、電磁波を地中に送り、その反射をとらえることで、地中の状況を探る方法。また、磁気探査とは、鉄類が磁化した磁気異常を測定する方法です。ともに実際に発掘する調査ではなく、非破壊の調査ですが、舟塚山古墳の埋葬施設を探るはじめての調査となります。また合わせて、以前よりもより詳細な測量調査が行われました。

後円部墳頂では、地中レーダー探査の結果、東西14m、南北6mの長大な埋葬施設と考えられる反応が得られました。しかも、木棺が朽ちてつぶれてしまったような反応もあることから、木棺を粘土でくるんだ「粘土槨」と考えられるものでした。これまでは、東国第1位の群馬県太田天神山古墳と同じく「長持形石棺」と考える説が有力だったことから、この成果は衝撃的でした。また、磁気探査では、埋葬主体の南西隅付近に鉄製品の埋納が予測されるような反応が得られました。

前方部墳頂では、地中レーダー探査の結果、東西8m、南北2.5mの埋葬施設の反応が得られました。一方、磁気探査では鉄製品に関する反応は得られませんでした。





# 築造時期

舟塚山古墳が築造されたのは、いつなのでしょう？さきほどご紹介したように、測量調査の成果が発表された昭和39年頃当時は「6世紀中葉前後（550年前後）」と考えられていました。それが埴輪研究の進展によって大きく変わりました。

昭和40年代後半になると、円筒埴輪が研究の俎上にあがってきました。円筒埴輪は多くの古墳に樹立されていることから、これを年代を計る物差しとして利用することで全国各地の古墳を同一基準で比較することが可能になりました。

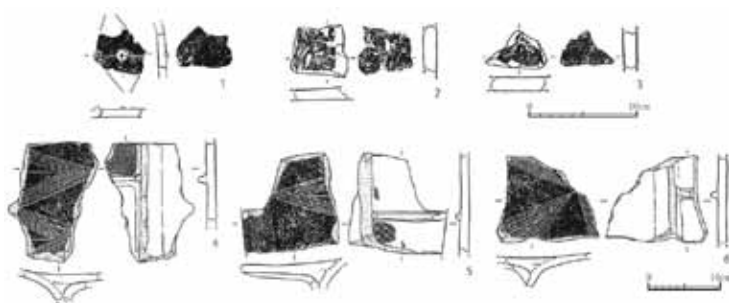
埴輪から年代を推定するポイントのひとつとして注目されたのは、埴輪に付着している「黒斑」と呼ばれる部分的なススコゲです。これは「野焼き焼成」によるものと考えられ、付着していないものは「窖窯焼成」によるものと考えられています。そして、5世紀中葉頃に、野焼きから窖窯焼成へと変化したと推定されています。

さて、舟塚山古墳から出土した埴輪を見ると、「黒斑」が付着しています。つまり、野焼き焼成によるもので、5世紀中葉以前のものと考えられます。

また、採集されている埴輪のなかには、短甲（胸から腹を防御する「よろい」）を模したと考えられる埴輪（短甲形埴輪）の破片があります。短甲のなかでも「三角板皮綴式短甲」と呼ばれるものを正確に写したものです。したがって、それが流行する4世紀末～5世紀前半頃に作られたものと考えられています。

そのほか、出土場所はわかりませんが、舟塚山古墳群出土と伝えられるものなかに、盾を模した埴輪（盾形埴輪）があります。「鋸歯文」という邪なるものから身を護る文様がつけられています。やはり、4世紀末～5世紀前半頃に作られたものと考えられています。

したがって埴輪からは、舟塚山古墳が築造されたのは4世紀末～5世紀前葉と考えられることになります。



▲舟塚山古墳採集（1～3）  
・伝舟塚山古墳採集（4～6）の形象埴輪

1が短甲形埴輪。線刻で三角板の特徴を、粘土紐の貼付で皮綴を表現している。4～6が盾形埴輪。

茨城大学2002『常陸の円筒埴輪』

井博幸2012『舟塚山古墳をめぐる断想』『茨城県考古学協会誌』24

各部の特徴 時代と埴輪の区分	焼成		ハケ			底部調整	突帯		透かし孔	
	有突帯	無突帯	タテハケ	A種ヨコハケ	B種ヨコハケ		無し	突出	凹形	ゆるい
4世紀前半 I										孔が1段に3つ以上
4世紀後半 II										1段に2つに
4世紀後半 III										突帯
5世紀前半 IV										透かし孔
5世紀後半 V										

▲各時期の埴輪の特徴

近つ飛鳥博物館2011『百舌鳥・古市の陵墓古墳』

※川西宏幸1978『円筒埴輪総論』『考古学雑誌』64-2をもとに作成



▲前方部裾部発見の朝顔形埴輪  
常陸風土記の丘にて展示しています

# 被葬者像

舟塚山古墳に埋葬されたのは、どのような人物なのでしょう？平成25年度の物理探査から①後円部と前方部の両方に埋葬施設が存在する、②後円部には鉄製品が多量に副葬されている、と推測できることになりました。鉄製品を武器だと考えると、武器を多量に副葬する後円部の被葬者を男性の政治的・軍事的首長、武器をもたない前方部を女性の呪術的・宗教的首長と、それぞれの被葬者を想像することもできます。

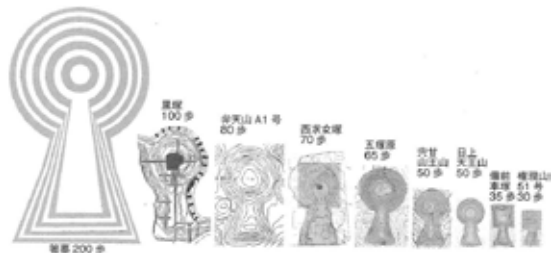
被葬者について考えるもう一つの手がかりとして、古墳の形があります。全国各地の前方後円墳のなかには、大王(天皇)の古墳とよく似た「縮小コピー」のような古墳があります。古墳を造るには当然設計図が必要なことから、大王をはじめ有力者と関係を結んだ証しとして有力者の設計図を与えられ、同一設計の古墳(相似墳)を造ることが許されたと考えられています。

さて、平成23～25年度に作成された舟塚山古墳の最新の測量図をもとに検討すると、奈良県広陵町の巢山古墳と非常によく似ていることがわかりました。巢山古墳は、奈良盆地西部の「馬見古墳群」のなかに存在する墳丘長220mの巨大な前方後円墳です。馬見古墳群は、そのほかにも100m級から200m級の大型前方後円墳や前方後方墳が複数築造されている大王墓に準じる有力な古墳群。被葬者は大王家と婚姻関係を結んでいた大豪族「葛城氏」と考えられています。巢山古墳が築造されたのは古墳時代中期初頭、西暦400年頃前後で、さきほど埴輪から導き出された舟塚山古墳の年代観とも齟齬はありません。

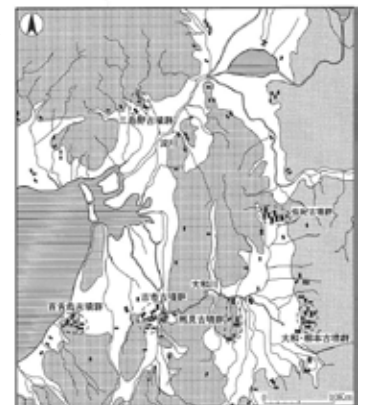
西暦400年前後という、大王墓が造られるのが奈良盆地北部の佐紀古墳群から大阪平野南部の古市・百舌鳥古墳群へと移る時期。応神天皇の時代です。応神天皇は、日本書紀や古事記には異母兄を倒す記述があります。政権内の反主流派であった応神が、政権主流派の後継者を打倒して王位を奪い取ったクーデターを伝えるものと考えられています。それに伴って大王墓も移動したのでしょうか。そして、クーデターでキャストボードを握り、応神に味方したと考えられるのが葛城氏なのです。「葛城氏との連合政権」とも言われる新政権の誕生です。

舟塚山古墳の被葬者は、クーデターで葛城氏を東国から支えた人物、あるいは、応神・葛城新政権で、東国の統治を任された人物だったのかもしれませんが。

ところで、平安時代に成立したと言われる「国造本紀」という書物には、石岡市を中心とする「茨城国」を治めた長「茨城国造」について、「軽嶋豊明朝」のときに「筑紫刀禰」が任じられたと書かれています。「軽嶋豊明朝」とは、応神天皇の時代のこと。国造制度はまだ成立していなかったと考えられる時代です。舟塚山古墳の被葬者の事績が、後の国造と重ねられて伝承されていたことを物語るものなのでしょうか。



▲「相似墳」の一例(箸墓型前方後円墳)  
広瀬和雄・山中章・吉川真司編2018『古墳時代の畿内』雄山閣



▲畿内における大型古墳の分布と編年  
(上)白石太郎1999『古墳とヤマト政権』文春新書  
(下)近つ飛鳥博物館2013『百舌鳥・古市古墳群出現前夜』





舟塚山古墳 巢山古墳



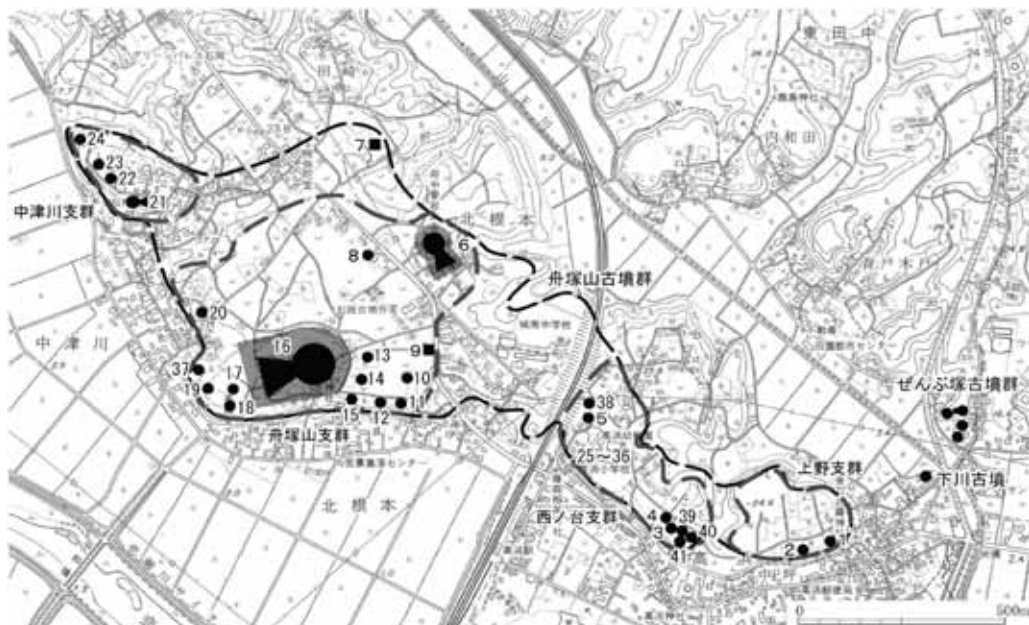


# 舟塚山古墳群の分布と構成

舟塚古墳群は、恋瀬川左岸の霞ヶ浦を臨む台地上に、東西約2km、南北約1kmの範囲に分布しています。現在までに確認されている古墳は計41基になります。

古墳は均等に分布しているわけではなく、まとまりがあることから、これを「支群」と呼んでいます。東から、上野支群(1・2号墳)、西ノ台支群(3～5・25～36・38～41号墳)、舟塚山支群(6・8～20・37号墳)、中津川支群(21～24号墳)、そして単独で存在する7号墳と、5つに分けられます。

古墳時代前期(4世紀)から終末期(7世紀)にかけて、途絶期間をはさみながらも長期にわたって古墳が築造されました。



▲舟塚山古墳群の分布

## 上野支群

1号墳と2号墳から構成されます。1号墳は「園部塚」と呼ばれ、大正時代には石棺が露出していたと言われています。しかし、現在では1号墳・2号墳ともに、墳丘の一部が残るだけとなっています。

平成10年(1998)に台地全体の試掘調査が行われたところ、1号墳の周囲では方形にめぐり溝が確認され、底に穴があいた「底部穿孔壺」が2個体出土しました。古墳時代前期(4世紀)のもので、古墳に伴うものとするれば、舟塚山古墳群で最も古い古墳になります。

また、1号墳と2号墳の間で古墳の可能性のある円形にめぐり溝が確認されています。墳丘が残っていない古墳が、そのほかにも存在していた可能性が考えられます。



▲上野支群



### ◀底部穿孔壺

1号墳の周囲の溝から出土しました(上の図の☆)。土器を焼成する前に底部に穴が開けられています。埴輪のさきがけ的な資料と考えられます。常陸風土記の丘で展示中。



## 舟塚山古墳群一覽

支群	古墳名	墳形	墳丘長(m)	調査歴	時期	備考
上野	舟塚山1号墳	方墳?	15?	1998年試掘	前期?	底部穿孔壺
	舟塚山2号墳	円墳	5			
西ノ台	舟塚山3号墳 (権現山2号墳 権現山古墳)	円墳	25.5		中期～後期	石棺露出、埴輪・ガラス小玉・鉄刀
	舟塚山4号墳 (権現山1号墳 佐太郎塚)	円墳	20～25	1995年試掘	後期	石棺露出、埴輪 刀剣・金環・勾玉・管玉?
	舟塚山5号墳 (物見塚古墳)	円墳	18		中期～後期	石棺あり?、埴輪
	舟塚山25号墳	不明	不明	1980年発見	後期～終末期	箱式石棺、金環2・人骨3出土。湮滅
	舟塚山26号墳	不明	不明	1900年発見	後期～終末期	
	舟塚山27号墳	不明	不明	1900年発見	後期～終末期	明治33年小学校建築の際、
	舟塚山28号墳	不明	不明	1900年発見	後期～終末期	箱式石棺6基発見。
	舟塚山29号墳	不明	不明	1900年発見	後期～終末期	刀剣・鉄鏃・勾玉・鈴釧・人骨出土。 湮滅
	舟塚山30号墳	不明	不明	1900年発見	後期～終末期	
	舟塚山31号墳	不明	不明	1900年発見	後期～終末期	
	舟塚山32号墳	不明	不明	1933年発見	後期～終末期	
	舟塚山33号墳	不明	不明	1933年発見	後期～終末期	昭和8年小学校再建の際、
	舟塚山34号墳	不明	不明	1933年発見	後期～終末期	箱式石棺5基発見。 湮滅
	舟塚山35号墳	不明	不明	1933年発見	後期～終末期	
	舟塚山36号墳	不明	不明	1933年発見	後期～終末期	
	舟塚山38号墳 (対馬塚古墳)	不明	不明			湮滅
	舟塚山39号墳 (権現山3号墳)	円墳?	10			
	舟塚山40号墳 (権現山4号墳)	円墳	5.2			
	舟塚山41号墳 (権現山5号墳)	円墳	3.2			
舟塚山	舟塚山6号墳 (府中愛宕山古墳)	前方後円墳	96.6	1897年発掘 1979年発掘	中期末 ～後期初	埴輪、土師器壺?
	舟塚山8号墳 (平足塚古墳)	前方後円墳?	90?	1897年発掘?	中期?	半壊、舟形埴輪?
	舟塚山9号墳	方墳	10	1976年発掘	終末期	石棺、人骨2体、湮滅
	舟塚山10号墳	不明	不明	1977年発掘	終末期	箱式石棺、直刀・馬具・刀子・金環・玉類・人骨。湮滅
	舟塚山11号墳	前方後円墳?	20?			湮滅
	舟塚山12号墳	円墳	19	1977年発掘	終末期	箱式石棺(礫床)、玉類・人骨。湮滅
	舟塚山13号墳	円墳	10			埴輪
	舟塚山14号墳	円墳	11.5	2000年測量	中期後半	箱式石棺露出 石製模造品・土師器・埴輪
	舟塚山15号墳	円墳	20	2008年試掘		土師器・須恵器
	舟塚山16号墳 (舟塚山古墳)	前方後円墳	186	1963年測量 1972年発掘	中期初～前葉	土師器・埴輪
	舟塚山17号墳	円墳	23.8	1972年発掘	後期初	壺形土器・短甲・盾・直刀
	舟塚山18号墳	円墳	9			
	舟塚山19号墳	円墳	17.8			
舟塚山20号墳	円墳	9.5				
舟塚山37号墳	円墳	8				
中津川	舟塚山21号墳 (大日如来古墳 大日塚古墳 手子后古墳)	前方後円墳?	90?			半壊
	舟塚山22号墳 (古館古墳)	円墳	12.5			
	舟塚山23号墳	円墳	14.5			半壊
	舟塚山24号墳	円墳?	4.1			石棺露出、ほぼ消滅
(天王塚)	舟塚山7号墳 (天王塚古墳)	方墳	19	2002年発掘	終末期	半壊、横穴式石室

# 西ノ台支群

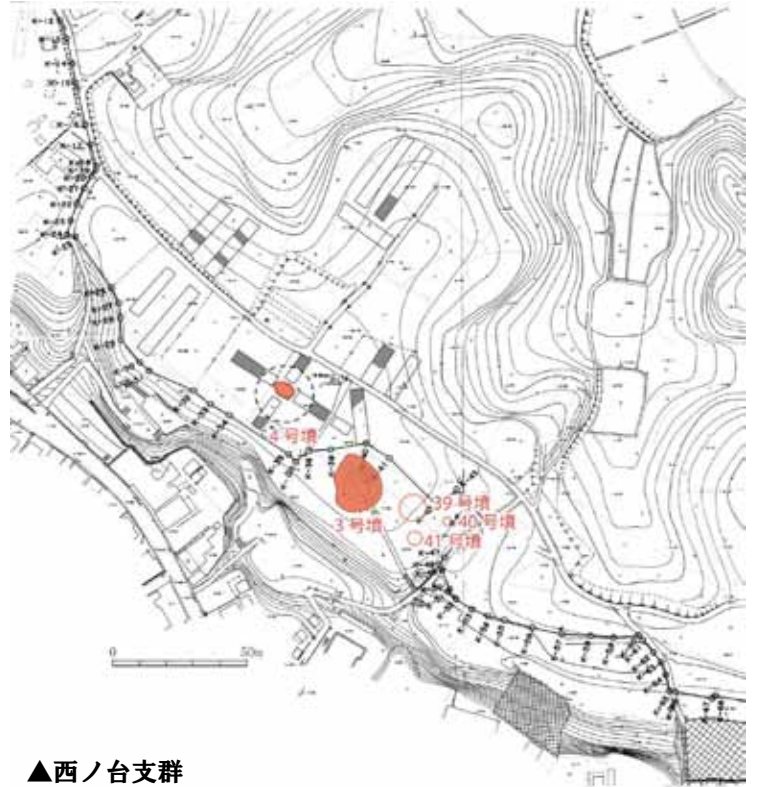
3号墳・4号墳を中心とする東側と、高浜小学校周辺の西側とに細分できます。

東側の台地全体の試掘調査が平成7年度(1995)に行われ、4号墳(佐太郎塚)の周溝が確認されています。周溝から径20mほどの円墳と推定できます。石棺の材料と考えられる石材が露出しており、内部は朱塗りで、刀剣や勾玉、管玉、金環が出土したと伝えられています。埴輪も出土しており、古墳時代後期後半(6世紀後半)の築造と考えられます。

3号墳(権現山古墳)は、径25mの円墳ですが、前方後円墳の可能性もあります。大きな朱塗りの石棺が露出しており、ガラス小玉や鉄刀、埴輪が採集されています。中期後半～後期前半(5世紀後半～6世紀前半)頃の築造でしょうか。

高浜小学校では、明治33年、昭和8年、昭和55年の工事の際に、箱式石棺が計12基発見されています(25～36号墳)。金環や刀剣、鉄鏃、勾玉、鈴釧等が出土したと伝えられています。これらは博物館に鑑定が依頼されたとのことで、皇室博物館(現在の東京国立博物館)に所属していた高橋健自氏や後藤守一氏の著書に「高浜」出土と紹介されている遺物がその一部と言われています。また、昭和55年に発見された箱式石棺は、今でも高浜小学校の校庭に保存されています。後期から終末期(6～7世紀)にかけての造営と考えられます。

5号墳(物見塚古墳)は、高浜小学校の西側に所在する径約18mの円墳です。石棺の材料と考えられる石材が露出しており、埴輪も採集されています。中期後半～後期前半(5世紀後半～6世紀前半)頃の築造でしょうか。



▲西ノ台支群



▲西ノ台支群の出土遺物



▲5号墳(物見塚古墳)

# 舟塚山支群

舟塚山古墳を中心として付属するように存在する古墳群(13~15・17号墳)と、そのほかとに分けることができます。

舟塚山古墳の北東に位置する14号墳では、箱式石棺が露出しており、かつて石製模造品(刀子形5、鎌形1)が出土しています。埴輪も採集されており、古墳時代中期後半(5世紀後半)の築造と考えられます。

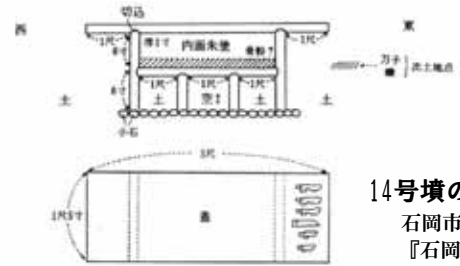
南側に位置する17号墳は、昭和47年に発掘調査が行われ、木棺から短甲や大刀、革製彩色盾が出土しています。後期初め(6世紀初め)頃の築造と考えられます。

このように舟塚山古墳に付属するような古墳は、いずれも舟塚山古墳(4世紀末~5世紀前葉)よりも新しいことがわかってきました。かつては、これらの付属墳を舟塚山古墳の被葬者の親族や家臣、あるいは被葬者のための副葬品を埋葬した「陪冢」と考えることもありました。しかし、舟塚山古墳と同時期ではなく新しいことから、舟塚山古墳の築造を契機に形成された古墳群と考えられそうです。

府中愛宕山古墳(6号墳)は、墳丘長96.6mの前方後円墳です。舟塚山古墳の半分ほどの大きさですが、市内では第2位の規模。昭和54年(1979)に周濠部分の調査が行われ、埴輪が出土しています。中期末(5世紀末)頃の築造と考えられ、舟塚山古墳の2世代くらい後の首長墓と言えそうです。その間に築造された首長墓は、小井戸地区の要害山古墳(75mの前方後円墳)と考えられています。

そのほか調査が行われている9・10・12号墳は、地下式の箱式石棺で、9号墳は方墳でした。終末期(7世紀)の築造で、長期にわたって舟塚山古墳群の地で古墳の築造が続いていたことがわかります。

また、単独で存在している天王塚古墳(7号墳)も、平成14年(2002)に発掘調査が行われ、横穴式石室をもつ辺19mの方墳で、終末期(7世紀)に築造されたことがわかっています。



14号墳の石棺  
石岡市1979  
『石岡市史 上巻』

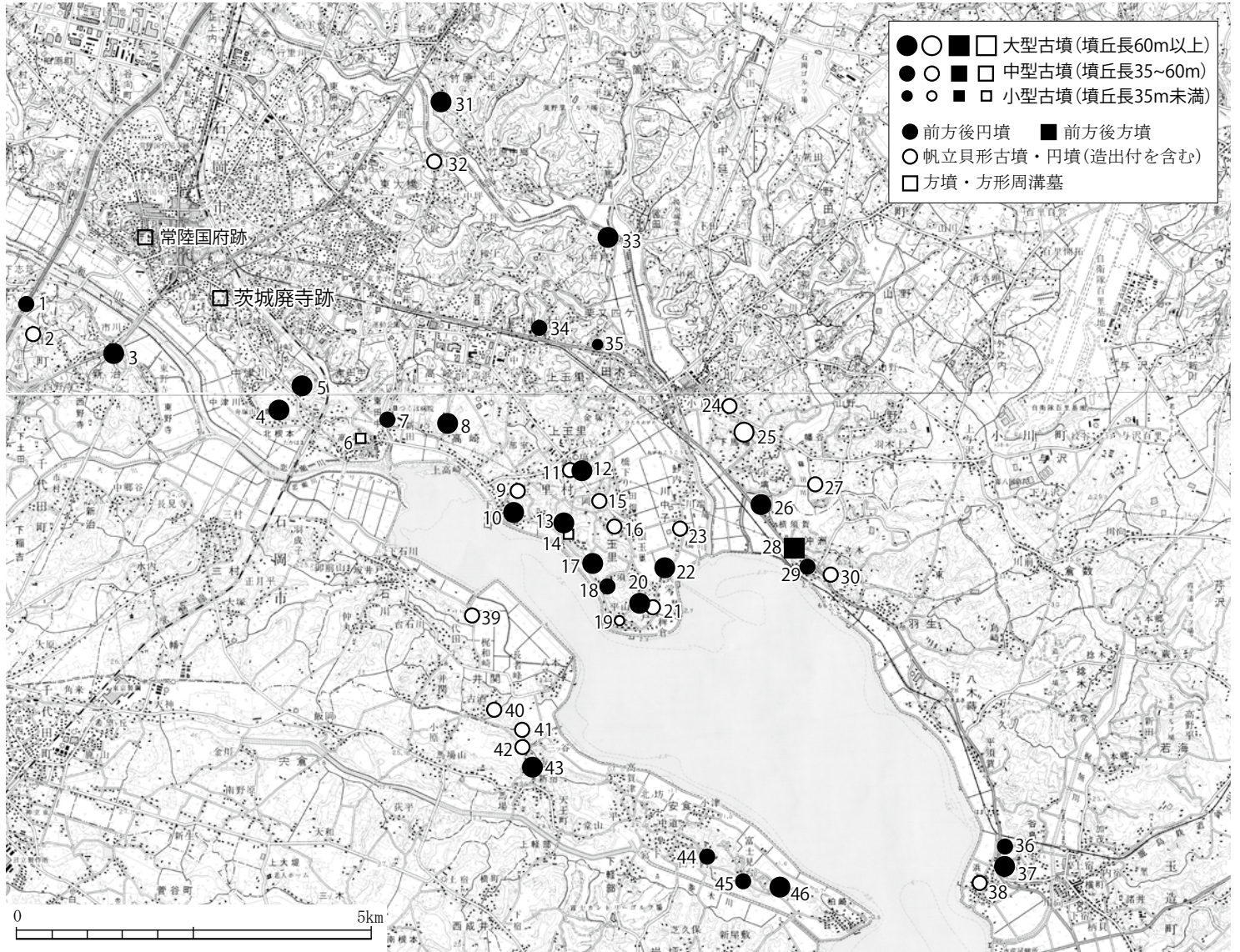


▲17号墳の木棺と遺物の出土状況  
石岡市教育委員会1972『舟塚山古墳周濠調査報告書』



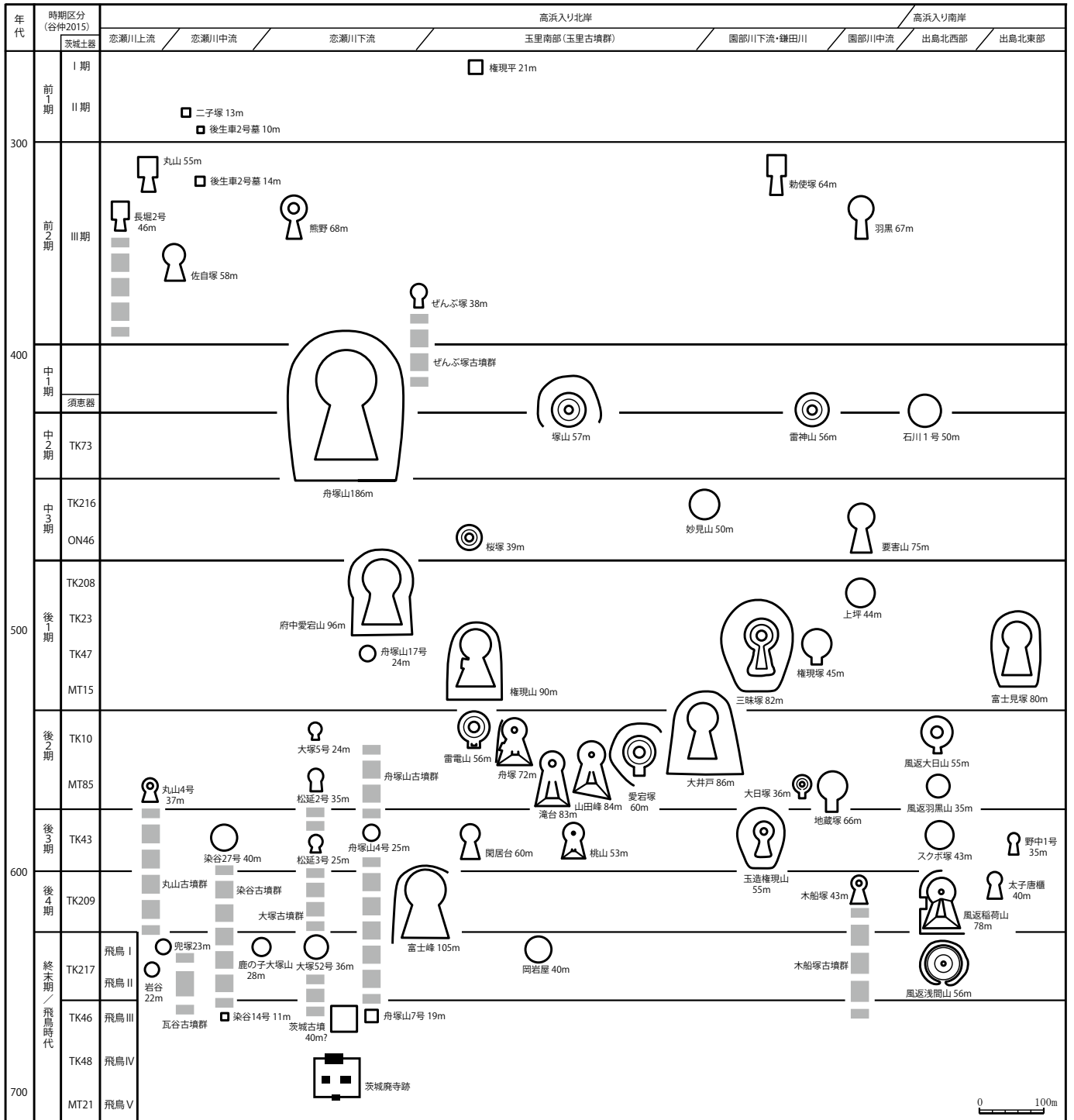
府中愛宕山古墳(6号墳)▶  
石岡市教育委員会2016『市内遺跡調査報告書 第11集』





- 1 松延2号墳 2 大塚52号墳 3 熊野古墳 4 舟塚山古墳 5 府中愛宕山古墳 6 上野遺跡 7 ぜんぶ塚古墳 8 富士峰古墳  
 9 桜塚古墳 10 閑居台古墳 11 雷電山古墳 12 舟塚古墳 13 権現山古墳 14 権現平2号墳 15 岡岩屋古墳 16 塚山古墳  
 17 滝台古墳 18 桃山古墳 19 下平前2号墳 20 山田峰古墳 21 愛宕塚古墳 22 大井戸古墳 23 妙見山古墳 24 雷神山古墳  
 25 地藏塚古墳 26 三昧塚古墳 27 権現塚古墳 28 勅使塚古墳 29 権現山古墳 30 大日塚古墳 31 羽黒古墳 32 上坪古墳  
 33 要害山古墳 34 木船塚古墳 35 岩屋古墳 36 塚畑古墳 37 兜塚古墳 38 東福寺古墳 39 石川1号墳 40 スクボ塚古墳  
 41 風返大日山古墳 42 風返浅間山古墳 43 風返稲荷山古墳 44 太子唐櫃古墳 45 野中1号墳 46 富士見塚古墳

▲霞ヶ浦高浜入りの古墳分布図



▲霞ヶ浦高浜入りの古墳編年



# ぜんぶ塚古墳群

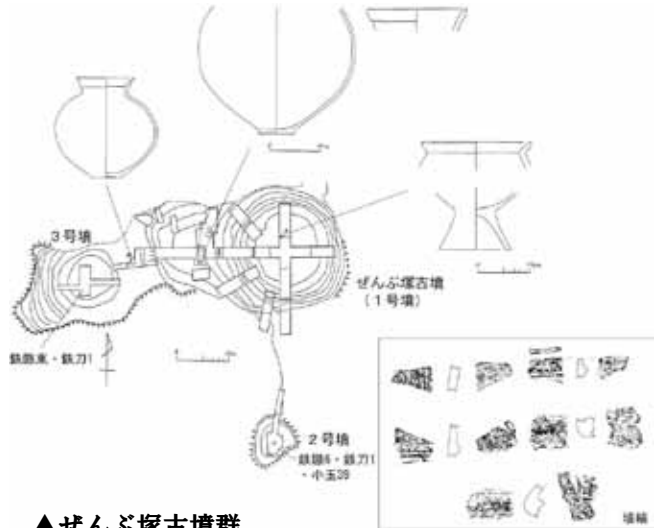
ぜんぶ塚古墳群は、舟塚山古墳群とは山王川をはさんだ対岸に位置しています。昭和56年(1981)に1号墳(ぜんぶ塚)・2・3号墳の発掘調査が行われました。

ぜんぶ塚古墳は、当初は円墳と考えられていましたが、調査の結果、墳丘長38mの前方後円墳と判明しました。埋葬施設は盗掘されていましたが、築造されたのは、出土した土器から古墳時代前期末(4世紀後半～末)。舟塚山古墳の直前段階に造られた古墳

と言えます。

2号墳は径20

～25m、3号墳は径12mの円墳でした。ともに鉄鏃や鉄刀、2号墳は小玉も副葬されており、墳丘の大きさに対し、豊富な副葬品が注目されます。中期前半(5世紀前半)の築造と考えられます。



▲ぜんぶ塚古墳群

石岡市教育委員会1982『ぜんぶ塚古墳発掘調査報告書』



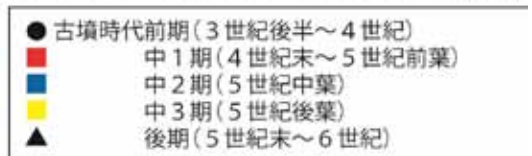
▲ぜんぶ塚古墳の発掘調査風景 自然地形を利用しており、実際の墳丘規模よりも巨大にみえる。

# 舟塚山古墳周辺の集落

舟塚山古墳の被葬者の住んでいた居館(屋敷)はどこだったのでしょうか？八郷地区では、佐自塚古墳(墳丘長58mの前方後円墳)の被葬者の住んでいた居館が佐久上ノ内遺跡で発見されています。幅3mほどの堀で、72m×53mの範囲を区画したものでしたが、石岡地区ではそのような遺跡は発見されていません。

舟塚山古墳の周辺で発掘された竪穴建物跡(住居跡)の分布を見ると、舟塚山古墳の築造された時期(4世紀末～5世紀前葉)のものは少なくその後、5世紀後葉くらいから増加する傾向があります。




舟塚山古墳の時期には墓域として利用され、居館や集落は別のところにあったのかもしれない。



▲舟塚山古墳周辺の古墳時代の竪穴建物跡の分布



# 展示品一覽

	展示品名	遺跡名	時期	写真	所有者
1	土師器	舟塚山古墳	古墳時代中期		石岡市教育委員会
2	円筒埴輪	舟塚山古墳	古墳時代中期		石岡市教育委員会
3	盾形埴輪	伝舟塚山古墳群	古墳時代中期		石岡市教育委員会
4	埴輪	舟塚山3号墳 (権現山古墳)	古墳時代中期 ～後期		石岡市教育委員会
5	埴輪	舟塚山4号墳 (佐太郎塚)	古墳時代後期		石岡市教育委員会

6	埴輪	舟塚山5号墳 (物見塚古墳)	古墳時代中期 ～後期		石岡市教育委員会
7	金環	舟塚山25号墳	古墳時代終末期		石岡市教育委員会
8	円筒埴輪	府中愛宕山古墳	古墳時代中期 ～後期		石岡市教育委員会
9	鉄刀・鉄鏃・馬具・ 金環・小玉	舟塚山10号墳	古墳時代終末期		石岡市教育委員会
10	鉄鏃・鉄刀	ぜんぶ塚3号墳	古墳時代中期		石岡市教育委員会
11	埴輪	石川1号墳	古墳時代中期		石岡市教育委員会
12	埴輪	石川2号墳	古墳時代中期		石岡市教育委員会
13	埴輪	要害山古墳	古墳時代中期		石岡市教育委員会
14	土師器・土玉	槇堀遺跡SI01 (H22・23財団発掘)	古墳時代中期		石岡市教育委員会
15	土師器	舟塚山古墳群SI01 (H25試掘)	古墳時代中期		石岡市教育委員会
16	土師器	中津川遺跡SI27 (H20・21財団発掘)	古墳時代中期 ～後期		石岡市教育委員会
17	土師器	北根本地区	古墳時代中期		石岡市教育委員会

石岡市立ふるさと歴史館第20回企画展

## 舟塚山古墳とその時代

令和元年11月7日発行

編集・発行

石岡市教育委員会 文化振興課

〒315-0195 石岡市柿岡5680-1

TEL 0299-43-1111

石岡市立ふるさと歴史館

〒315-0016 石岡市総社1-2-10

TEL 0299-23-2398